会津藩は、西軍に反抗したという事で領地を取り上げられてしまいました。藩士はすべて捕われの身です。そこに、新領地がもらえる、という知らせが入ってきたのは明治二年のことでした。会津二十三万石の藩士に与えられた新領地は、本州の最北端、下北半島のわずか三万石でした。

「新領地は、広々として、実際は七十万石もあるというではないか。」

「とんでもない、七千石もないという話だ。」

会津藩士たちは、不安と期待の入りまじった気持ちで、本州さいはての下北地方へ移住することになりました。

新しい領地の藩名は「斗南」と名づけられました。

明治三年の五月なかば、柴一家の男たちは、それぞれの道を歩むことになります。父佐多蔵は、一人で会津に帰りました。斗南領へ行く前に、せめて自害した母や妻子たちの墓参りをして、別れを告げておきたいと思ったからでした。